



肝臓でつくられる胆汁は、胆管という管を通って十二指腸へ排出され、食物の消化を助ける働きをします。しかし、胆管が結石や腫瘍などによって詰まり、胆汁が出口を失って血液中に出てくる場合があります。この状態を閉塞性黄疸と呼んでいます。

この病気の症状としては、尿が濃い黄色になる、全身がだるい、皮膚のかゆみや発熱などがあります。特に高熱でお腹に強い痛みを伴っている場合は、緊急の処置が必要です。これは、詰まった胆管の中で細菌が増え、急性の胆管炎を起こしているからです。

治療としては、内視鏡を用いて胆管内にチューブを

蒲郡市民病院 消化器科部長 医師 山田昌弘

閉塞性黄疸について

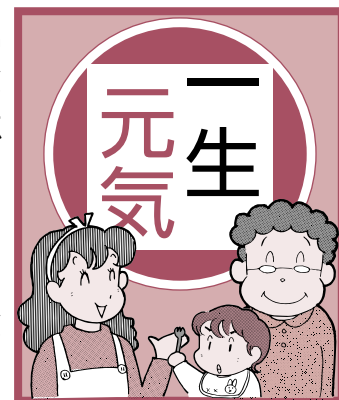
とき	内容
8月18日(水)	糖尿病とは
8月19日(木)	日常生活の話
8月20日(金)	合併症、検査
8月23日(月)	食事の話
8月24日(火)	薬と運動の話

各日ともに午後2時～3時

入れ、化のうした胆汁を十二指腸へ排出させます。場合によっては、皮膚から胆管を刺してチューブを入れ、体外に胆汁を出すこともあります。市民病院消化器科では、いったん、これらの処置で発熱、腹痛あるいは黄疸が改善したら、その原因をはっきり診断した上で、患者さんにとって最善の治療を行っています。

黄疸は、血液検査や腹部CT検査、超音波検査などで、すぐに診断できます。症状が見られたら、できるだけ早く、お近くの医療機関をお訪ねください。

「糖尿病教室8月」
市民病院内科 66 2211
ところ 市民病院講義室
(23日(月)は市民病院7階食堂)



「食事がおいしく食べられること」
これが、歯科医の立場からみて、要介護状態になりにくくするポイントです。一口においしく食べると言っても、さまざまな要因があります。入れ歯はしっかりとめる状態か、痛いところはないか、かみ合わせは正しいかなどです。実際、歯科治療により、かみ合わせを改善した要介護状態の方々の一部で、要介護度が低くなってきたとの報告が見られるようになりました。いつまでも、自分の歯で食事ができることも、おいしく食べる一つの要因です。そのため、歯科医師会では、8020運動(80歳で20本の歯)を推進しています。

問合先 長寿課 66 1105

介護予防～歯科医師の目から～

8020に該当する方であれば、ほとんどの食べ物をかみ砕くことができます。できるだけ自分の歯を長持ちさせるために、自分に合った歯みがき、定期的な歯の点検・清掃を心がけましょう。

また、かかりつけ歯科医に定期的にチェックしてもらつことも、歯を長持ちさせるポイントです。歯医者へは、痛くなつてから治療に行くのではなく、治療するようにしないために自分の歯の状態を調べに行くようにしましょう。これは、入れ歯の方も同様です。常に、自分に適した入れ歯を使う事で、楽しい食生活を送れるものと思います。

市民の皆さんが、いつまでも元気でいきいきとおいしい食事が取れるよう、蒲郡市歯科医師会は応援しています。

蒲郡市歯科医師会

山下 敏康